

## 言心先生の中国便り

## 残酷な民族

時々、中国のネットで、日本軍の日中戦争中での残酷な行為を披露する文章を読んでいる。このような文章の結論は、日本民族が、非常に残酷な民族だと言うこと

である。筆者は、なかなか同意できない。世界にどちらの民族は残酷で、どちらの民族は善良であると言うこととなく、やはり、色々の条件が揃えば、この民族が残酷になり、当然、ある条件が揃えば、この民族が善良になると思う。

例えば、戦争という何千年の人類文明を否定するという状況の中、特定の人が、死活に直面すれば、当然、人間性は極端に少なくなり、一方、非人間性は極端に多くなる。今、どちらの民族が残酷とか、善良とかの議論は、あまりにも無意味である。我々にとっては、出来るだけ、戦争等の人類文明を否定する状況を避けることが、最善ではなからうか。

戦争以外でも、金銭を極端に求め、道徳秩序が崩壊し、弱肉強食な社会状況では、普通の人間でも残酷になると思う。

10月13日、中国広東省佛山市の金物市場に、二歳の女の子が、二度車に衝突された。18名の方が、倒れた彼女の傍を通り、一人も彼女を助けなかった。最後に、一人のゴミ拾いで、家計を維持する小母さんが、瀕死の児童を保護した。数日後、不幸にも彼女は、短い生涯を終えた。このニュースに対して、中国全土の民意が、激しく動いた。中国の国歌は、日中戦争の時期に、作成された。その中に、「中華民族が、最も危険な時代になった」と言う歌詞がある。ネット上で、「中華民族が、最も道徳崩壊

している時代になった」と言う揶揄の表現も出た。

人権・人命の軽視は、道徳崩壊の一つの重要な原因である。一人っ子政策のせいで、生まれる直前の胎児を流産させられることもしばしある。

また、今の医療制度では、お金がなければ、医療救助をうけられないことが、当たり前である。数年前、筆者は、中国の地方病院で、この惨状を目視した。

善良な人が、倒れた年寄りを助けて、病院に送ったが、

老人は、救助した人に感謝するのではなく、彼を自分につかつたとして告訴した例もある。結局、裁判所で、彼に高額の慰謝料を支払う判決が出た。

以上の原因で、中国人は段々に冷血、残忍になっていく。最近、大勢の中国人は、これに反省している。しかし、政府の宣伝部門は、これを一切認めず、「中国人は、最も善良で、他人を助ける事に熱心な民族だ」という自身と国民を騙す宣伝用語しか使わない。



ありがとう

おばあちゃん  
大丈夫?

中華民族の道徳崩壊  
を反省する中国人も  
大勢いるが…